

絶滅の田沢湖クニマス 新たに1標本 京都大で発見

クニマス サケ科に属し、世界中で田沢湖にのみ生息したとされるが実態は明らかでない。全長約30センチ。ヒメマスの近縁だが、ヒメマスにある背中の黒い斑点

がない。かつて湖岸付近の漁師が刺し網漁を行っていた。昭和15年、田沢湖を水力発電の貯水池として利用する国策のため、玉川の強酸性水が導入されたことで絶滅した。



京都大学の舞鶴水産実験所で見つかったクニマスの標本—男鹿市の県水産振興センター

は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

館」の消印があり、日付は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

館」の消印があり、日付は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

館」の消印があり、日付は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

館」の消印があり、日付は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

館」の消印があり、日付は昭和三十六（一九六〇）年十二月二十七日、あて先は「舞鶴市長 浜 京都

角館南高から寄贈

田沢湖の固有種で六十年以上前に絶滅したクニマスの標本が、京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所（京都府舞鶴市）に保管されていたことが分かった。同大に九匹の標本があることは昨年末に明らかになったが、今回確認された一匹は九匹とは別ルートで京都にもたらされていた。採集にかかわった人の名前も記録されており、ゆかりの人たちは感慨を新たにしている。

標本はホルマリンを満 大学水産学科 松原喜代

はがきの受取人、松原 標本が京都大で見つかった

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

たした瓶に入っており、 松先生」。

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

茶色で尾びれは欠けてい 裏面に「御申込みの

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

生保内の魚屋が採集

昭和36年の消印がある松原教授あてのはがき。昭和5年の採集と分かる



あった標本と同一か一連のものだったとみられる。

武藤の二女、堀井玲子さん（七七）秋田市仁井田

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

茶色で尾びれは欠けてい 裏面に「御申込みの

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代

喜代松（明治四十―昭和 松原喜代